

仙台市太白山自然観察の森情報誌

No. 226

もみ森のおくりもの

2010年 6月号



イラスト：遠藤 ます子（太白区）

もう一年の半分を迎えました。今年はなんとなく寒暖の変化がありすぎて、お山の植物たちも戸惑っているのか花を咲かせるのが例年より遅れている感じがします。晴れた日はお山目指して来園する方が増えてきましたが、それと比例してゴミも増えてきているようです。お山の生き物たちに申し訳ないので、今更ながらなのですがゴミは是非お持ち帰りをお願いいたします。

（武智）

チャンスは自分で作ります！ ホオノキ

みなさんはホオノキという木をご存知ですか？「朴葉味噌」といえば聞いたことがある方もいらっしゃると思います。お味噌をのせて焼く時に使う大きな葉をつける木です。この花は6月に花をつけるのですが、「びっくり！仰天！！」なくみをもっていました！今回はそんなホオノキのふしぎをご紹介します。

〈花の1日目〉

めしべは紫色の柱頭が反り返り、花粉を受けられるようになっています。



〈花2日目〉

柱頭は花軸にぴったりとつき、花粉は受けられません。おしべは、昆虫がふれると落ちます。



〈花3日目〉

おしべは昆虫に花粉を提供し、花床からはずれたおしべは、ポロポロと落ちます。



ホオノキは高木になる木で、山々が新緑に包まれる頃、大きな葉を車輪上に広げます。それから間もなく、木の高い部分の枝先に直径15cmにもなるクリーム色の大きな花を咲かせます。この花は香りが強く、花はなかなか間近にみることはできませんが、この木の下を通ると爽やかで甘い香りがします。私はある公園に植えられた若いホオノキが、ちょうど目の高さで咲いているのを見たことがあったのですが、今回調べてみて「びっくり！仰天！！」、間近でみていたのに気がつかない、すごしくみをもっていました。そのしくみとは、「1日目はメスの花」になり、「2・3日目はオスの花」になるということです！！「えー！これは一体どういうこと!?!」と更に調べてみると、1日目は、おしべが固く閉じてめしべだけ開き、自分の花粉をつかないようにし(雌性期)、2・3日目は逆に、めしべが閉じ、おしべが開いて花粉を放出するのだそうです(雄性期)。他の木の花粉を受粉した場合(他家受粉)と、自分の木の花粉を受粉した場合(自家受粉)を比較すると、自家受粉によって実を結んだ種子の数はとても少なく、また幼樹の生存率も低くなってしまうため、このような工夫を行うのだそうです。しかし、せっかくこうした工夫を行っても、ホオノキの自家受粉率は、なんと5割から7割にまで及ぶ、とされています。ホオノキは散在することが多く、一つの樹で花が一斉に咲かないため、どうしても自分の花粉を受粉してしまうのです。かといって一斉に花を咲かせれば、めしべは1日しか開かないため、その日がたまたま天気が悪かったり、花粉を運んでくれる昆虫が少ない年の場合、花粉を媒介してもらえず、ひとつも実がならないなんて事態も考えられます。それよりは、他家受粉する努力をしつつ、確実に実をつける自家受粉も同時に行うことを選んだのではないかと考えられています。

観察の森では、ヨシの湿地やみはらしの道中腹で、観察することができます。大きな花とすてきな香りを楽しみに、観察の森へいらしてみませんか？ 【文・イラスト:咲間】



【もんだい】 ホオノキの葉は、次の図のうちどれでしょう？

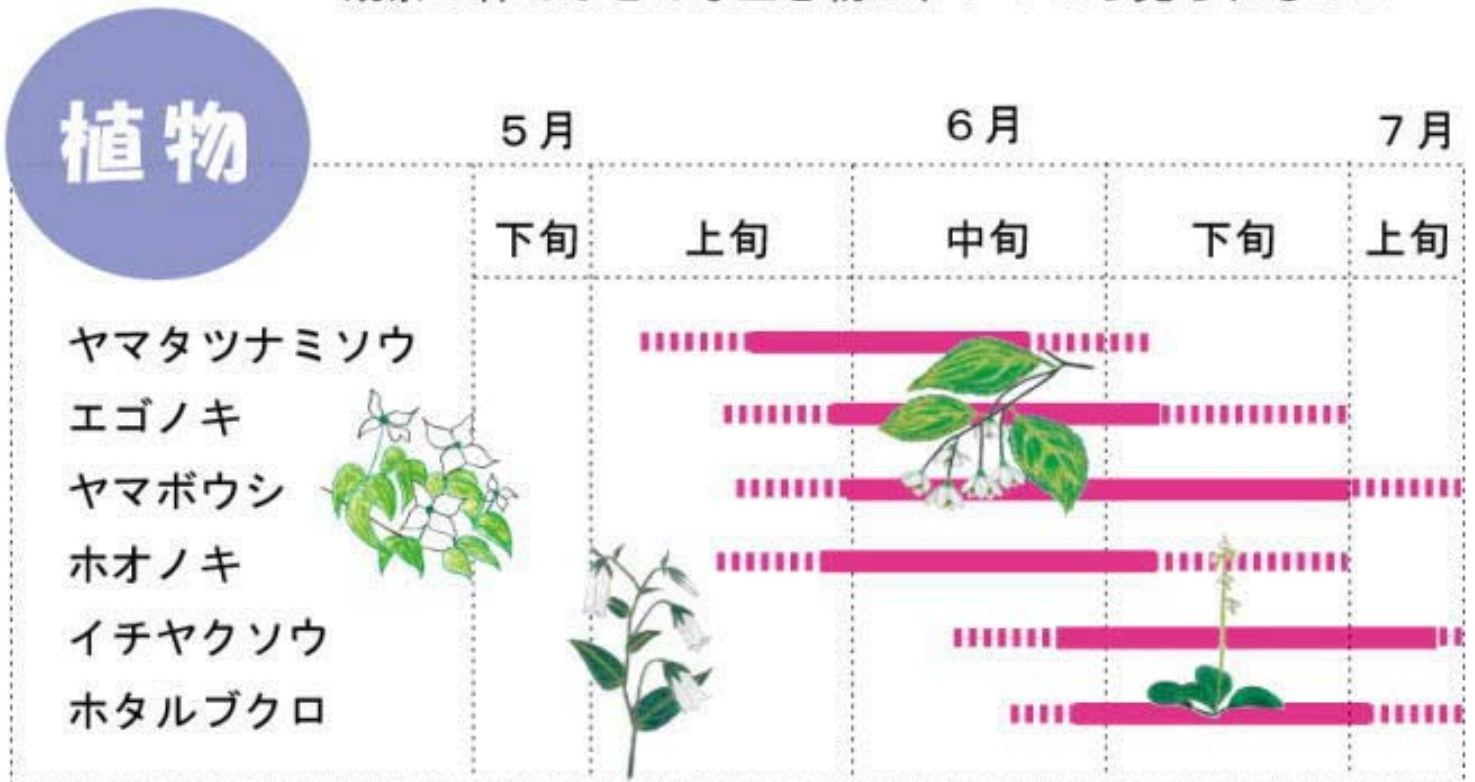


【答えは、5ページ 55】

6月の生物ごよみ (過去のデータから予想)

観察の森ではどんな生き物が、いつごろ見られるの？

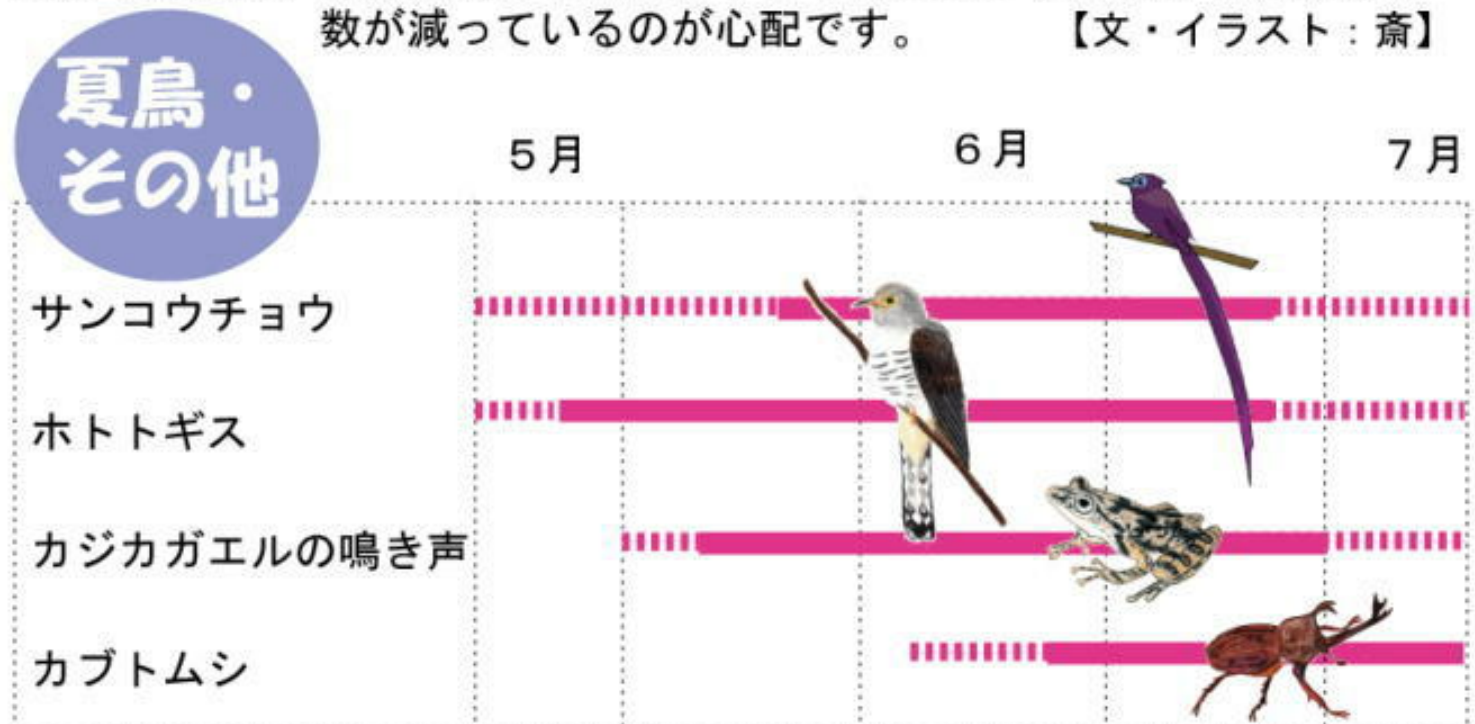
植物



5月の後半には山はきれいな緑色につつまれました。それでも今年は平年と比べ10日ぐらい進みが遅いようです。いつもは5月の初めに咲くフジの花も今年は5月後半にやっと見頃を迎えました。

夏鳥のホトトギス（♪キョッキョ キョッキョ・・・・）やサンコウチョウ（♪フィッチ フィッチ ホイホイホイ）の鳴き声も聞かれるようになりました。6月にはカブトムシやクワガタムシも出るのが毎年数が減っているのが心配です。 【文・イラスト：斎】

夏鳥・その他



みんなで自然観察

イベント報告

筑川・水辺の観察会



穴のあいた落ち葉

5月22日は、私がヨシの湿地と筑川を案内しました。出発前、ヨシの湿地で拾った落ち葉で作ったしおりを、みなさんにプレゼントしました(人数が少なかったなので今回は特別です)。落ち葉には、不思議な形に穴があいています。最初に「食痕？」という声がありましたが、実はコバントビケラの幼虫が

巣材を切り抜いたものです。中にはオバケの顔(?)のように見えるものもあり、なかなかユニークです。コバントビケラは落ち葉から二枚の小判形を切り抜き、それを貼り合わせて持ち運び可能な巣(可携巣)を作ります。トビケラ幼虫の巣材や形は種によって特徴があり、落ち葉を使うものや砂粒を使うもの、成長とともに巣材を変えるものもいます。また、水中に蜘蛛の巣状の網(固着巣)を張るもの、巣を作らずに徘徊するものなどもあります。このような生活様式の多様性が、トビケラの魅力の一つでもあります。筑川(小鳥の森付近)では、巣を持ち歩くコバントビケラを見つけることができました。他に、ムラサキトビケラやコカクツツトビケラなど落ち葉を巣材に使うものや、巣を作らないナガレトビケラも見ることができました。ちなみに、巣を持ち歩くトビケラのことを「水中ミノムシ」と呼ぶことがあります。ミノムシはガの幼虫ですが、トビケラはチョウやガの仲間と近い別のグループで、成虫は細長いガのような姿をしています。筑川で見られた主な生き物は、トビケラその他、カゲロウ、カワゲラ、ヘビトンボ、ミルンヤンマ、ガガンボ、アメンボ、マメゲンゴロウ、ヒメフナムシ、ヌカエビ、プラナリア、カジカ、ヨシノボリ、ホトケドジョウ、タゴガエルなどでした。ヒガシカワトンボの成虫も飛んでいました。ヘビトンボが採れると、「わあ！」と声があがり、人が集まってきます。怖いもの見たさかもしれませんが、水生昆虫の中では、ヘビトンボが一番の人気者です。ヘビトンボよりも、孫太郎虫の名の方が知名度が高いかもしれませんが、疝の虫の薬として有名です。観察会のときに見られたヘビトンボは、赤っぽい色のヘビトンボと、黒っぽい色のヤマトクロスジヘビトンボでした。自然観察の森では成虫もよく見かけますが、「風の谷のナウシカ」に出てきた空飛ぶ巨大昆虫を思わせる姿をしています。ヨシの湿地では、タゴガエルが鳴いていました。シュレーゲルアオガエルの声は聞こえませんでした。水際より少し上の土の窪みに、卵塊を二つ見ることもできました。ヨシの湿地に溜まった落ち葉の上には、見つけにくいですが、よく見るとコバントビケラやエグリトビケラが歩いていることがあります。もちろん、穴のあいた落ち葉もあります。ヨシの湿地を通るときには、水底の落ち葉もぜひ観察してみてください。



ヤマトクロスジヘビトンボ

【文・イラスト: 林】

6月 館長の独り言

時のたつのは早くて、もう一年の半分、あっという間に過ぎた。最近は何のせいか時間が過ぎるのを早く感じる。センター周辺の木々の葉も淡い緑色から濃い緑色になり、黄色や白色の花が目を引きようになった。観察のためネイチャートレイルを歩いていると暖かくなったせいか汗ばんでくる。天気の良い日はお山を目指して来園するお客さんが増えてきたが、暖かさが続かないせいか昨年より若干少ないようだ。

最近気になっていることがある。それは表紙でも書いたがゴミのことである。観察のためネイチャートレイルを歩いているとテンの落し物（ウンチ）が道の真ん中にさも私がここで生活していますとでもいうように落ちていたり、小鳥の森でもイノシシの落し物があったりで、このようなものは生き物の食性を知る上で重要な資料だが、人が不要（ビニール袋・アメ・ガムの包み紙・タバコの吸殻等）となったものが落し物として捨てられているのは大変困る。以前勤めていた動物公園で二ホンカモシカが死んだので解剖したら、ソフトボール大の大きさで、石のように硬く固まったビニールの塊が胃の中から出てきた。これはお客さんがお菓子を食べた後、袋を捨てそれを二ホンカモシカが長年にわたって食べ胃の中で固まってしまったもので、もし太白山に生息している個体がたべていたらと思うとぞっとする。センターの職員も巡回の時は目に付けば片付けるのだが、最近は何の前述のほかにいわゆる不法投棄物（炊飯ジャー・ケトル・ホース・オイル缶・ヨシズ・ステンレス柵・室内改装用器具と材料・ねじ回しが入った道具箱等）が園内に投棄されて大変困っている。前述の不法投棄は5月にありそのたびに仙台市環境局廃棄物事業部指導課に連絡し投棄物を調べてもらい太白環境事業所に引き取ってもらった。投棄した人はセンターに職員がいないのをみすまして捨てに来るようだが、そのうちきつとお山の環境を乱したということで天罰がくだされるものと思っている。

（武智）

クイズのこたえ

①



（ホオノキ）

「ホオノキ」の葉は ① でした。ちなみに、B ②「イタヤカエデ」、C は③「カヤキ」です。ホオノキの葉の長さは 30～40cm と非常に大きいので、昔から食べ物を盛ったり、包んだりするのに使われてきました。朴葉味噌、朴葉寿司、朴葉焼きといった料理が有名です。また、この葉でキツネなどのお面を作って遊んでも楽しいです！秋になったらホオノキの大きな葉っぱであそびましょう♪

【咲間】



6月の催し



「おはよう野鳥かんさつ」

春の雑木林を歩きながら、
野鳥たちの暮らしを観察します。

6月12日(土)

6:30 ~ 8:00

【持ち物】暖かく歩きやすい服装、
観察用具、雨具など
(双眼鏡の無料貸出あり)

【講師】太田吉厚氏
(宮城県森林インストラクター)

★申し込み不要です
自然観察センター前にお集まりください。

「深緑の太古の森をたずねて」

里山とは違った原始的な自然の残る
鉤取山国有林を歩きます。

6月19日(土)

10:00~15:00

【持ち物】お弁当、歩き易い服装で

【定員】20名

【講師】親川麗子氏
(自然観察指導員)

申し込み⇒ 6月8日9時から電話にて

「ガイドウォーク」



6月のテーマは『森と昆虫たち』です

(毎週日曜日)

6日, 13日, 20日, 27日

午前の部→ 10:00~11:30

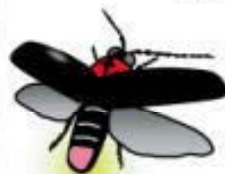
午後の部→ 13:30~15:00

★申し込み不要です
自然観察センター前にお集まりください。

7月の催し

「夜の森の観察会」

ホタルを探しながら
夜の森を散策します。



7月10日(土)

19:00~20:30

【持ち物】懐中電灯、歩き易い服装で
【定員】20名

申し込み⇒ 7月6日9時から電話にて

休館日

7日、14日、21日、28日、

♪森へおいでください♪



宮城交通バス

仙台駅前バスプール7番 または 長町駅前から
山田自由ヶ丘車庫 行きに乗り
公営アパート前 で下車、徒歩15分でセンター



車

国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ。
道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。徒歩5分でセンター



定期購読のお知らせ

住所・氏名・電話番号と、何月号から希望かを明記のうえ、80円切手12枚を同封して、自然観察センターまでお申し込みください。

2010年6月号(毎月1回5日発行)

発行:(財)仙台市公園緑地協会

編集:仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター

〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森東36-63

Tel: 022-244-6115 FAX: 022-244-6133